生活情報　くらし　家族

母を褒めて子ども救う

家庭教育支援研修会　大崎さんが講演

県立総合教育センター（行田市）はこのほど、同所で2017年度の家庭教育支援研修会を開き、教職員や家庭教育アドバイザーら50人以上が参加した。子供と母親向けにカウンセリング事業を展開する「心サポートセンターKotodama」（さいたま市中央区）代表の大崎清美さんが「母を褒め、子供を救う」と題して講義・演習を行い、悩みを抱える母親との接し方や親子の心を開くアプローチの仕方を紹介した。（三宅芳樹）

大崎さんは、学習塾の管理職や講師を務めた経験を生かし、20年以上にわたって子供の教育問題や家庭問題に関する相談業務に携わっている。

近年では、子供のいじめや虐待、不登校に悩む家庭が後を絶たない。大崎さんは、子供と接する時間の長い母親に余裕がないことが、主な原因とみる。「子供の問題で相談に来る母親の多くは、自分自身で問題を抱えている。夫婦関係やしゅうとめさんとの関係、仕事上のこと。いろいろな悩みでがんじがらめになり、心に余裕がなくなっている」

誰にも褒められずに心に余裕がない母親は、子供とうまく向き合うことができないという。「子供が話したいと言っても『忙しいから後にして』と受け流し、問題を起こすと『あんたなんか産まなければよかった』と全否定してしまう。子供の良いところを見つけられず、褒め方も分からない。きつく当たられた子供は反抗するか、心のシャッターを閉めるかのどちらかになる」と指摘した。

そうした母親の中には自分の親も心に余裕がなく、〝負のスパイラル〟が生じているケースも少なくないという。それを断ち切るためにも、悩みを抱える母親には「気持ちに寄り添い、笑顔になってもらうことが大事」と強調。

「子供との接し方が分からなかっただけで、あなたは悪くない、頑張っていると認めてあげる。悩みを吐いてもらい、一つずつひもといてあげる。気持ちが楽になり、心に余裕ができれば子供への接し方が変わる。お母さんが笑顔になれば、子供を救うことができる」と力を込めた。

子供に接する際のアドバイスでは、「～しては駄目」という否定語ではなく、目標設定も含めて『肯定語』を使うことを意識する」、「子供が話を聞いてほしいと言ったら、できるだけ手を止めて耳を傾ける。または～時まで待ってと、具体的に数字で示す」といった方法を紹介した。

「お母さんに笑顔になってもらうことで、子供を救える」と話す大崎清美さん＝6月28日、行田市の県立総合教育センター

【おことわり】「平和ボケばあさんの猫暮らし」は休みます

病弱の

暮らし向きに苦労した

瀬棚町は、北海道道南の渡島半島中央部の日本海に面した港町で、後志利別川の河口で奥尻島への玄関口。町名の由来は、アイヌ語の「セタルペシュペナイ」（犬が泳ぎ渡る川）が略されたセタナイから来ていると言われている。

兄も弟も身体は丈夫で相撲が

渋沢栄一賞を受賞した中村隆俊会長（右から2人目）と上田清司知事（同3人目）ら＝2月、さいたま市大宮区のソニックシティ

夫に　近くのコイの養殖所に

イを求めに行かせ、隆俊にコイの生き血を飲ませてくれた。隆俊は食事の好き嫌いをなくし苦手を克服することによって、普通の身体になっていった。家族の愛と能代先生、平先生の指導のおかげで今日の自分があるのだと、隆俊は思っている。

（敬称略）

さんと広瀬すずさん　冒

険家の三浦雄一郎さん。

応募1作品につき、途上国の給食4日分に相当する120円が協力企業から寄付される。昨年は約1万5千通近くの応募があり、5万8千人を超える子どもたちに給食が届けられたという。応募

「散歩本を散歩する」（池内紀著）

円熟の名文で知られるドイツ文学者が、井伏鱒二、池波正太郎といった文豪や文筆家らの「散歩本」を手に、東京の街を訪ね歩く。月刊誌「散歩

の達人」

月号～17

した文章

例えば

和下駄」

好んだ「

る坂」を

とする。

がたっぷ

たエッセ

（交通

4円）

ご飯の冷凍保存

暮らしのアドバイス

ご飯の保存法として便利な冷凍。しかし、解凍した時に、ボロボロと劣化してしまった経験はないですか。

ご飯を

く冷まし

入れると

思います

時間がた

くなるな

しまいま

保つポイ

取れて温

冷凍庫へ

す。

ラ

も一

平た

を抜

す。

ミホ

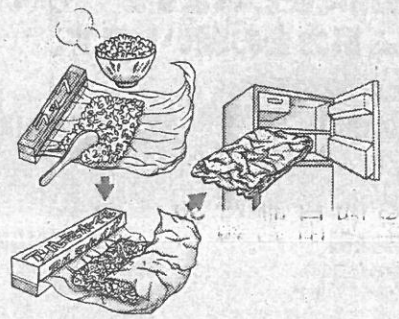
凍庫

ま味

しい

す。

くだ



絵・竹澤イチロー